故障かな？と思ったら・・・

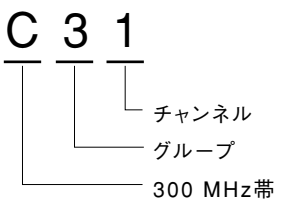
症　状	点　検	処　置
電源が入らない。	ACアダプタが正しく差し込まれていますか？	ACアダプタを正しく差し込んでください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ⑤は消灯。	グループスイッチ⑪、チャンネルスイッチ⑫が送信機と同じ設定になっていますか？	グループスイッチ、チャンネルスイッチを送信機と同じ設定にしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ⑤は3回点滅の繰り返し。	グループスイッチ⑪、チャンネルスイッチ⑫が割当て外のところに設定されていませんか？ 下記以外の設定はできません。 グループ1～3：チャンネル1～4 グループ4：チャンネル1 グループA：チャンネル1～4、・ なお、グループ1～3のとき、チャンネル「・」を選択するとスキャンモードになります。	グループスイッチ、チャンネルスイッチを正しく設定してください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ⑤は速い点滅。	トーンが送信機と同じになっていますか？	トーンスイッチ⑨で送信機と同じトーンにしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ⑤は点灯。	3極ホーンプラグが奥まで挿入されていますか？	3極ホーンプラグを奥まで挿入してください。
送信機が離れると、雑音が多くなる。	受信感度スイッチ⑩が「Hi」になっていませんか？	受信感度スイッチを「Lo」にしてください。
	テストスイッチ⑧が「有」になっていませんか？	電源を切って、テストスイッチを「無」にしてください。
リモートができない。（リモート出力端子）	ケーブルが正しく接続されていますか？	ケーブルを正しく接続してください。
アンテナが切り換わらない。	ケーブルが正しく接続されていますか？	ケーブルを正しく接続してください。
受信する音が小さい。	接続される側が不平衡入力なのに、「平衡」になっていませんか？	平衡／不平衡スイッチ⑲を「不平衡」にしてください。
	接続される側が平衡入力なのに、「不平衡」になっていませんか？	平衡／不平衡スイッチ⑲を「平衡」にしてください。

周波数表

グループ / 周波数(MHz)	1	2	3	4	A
322.025			C31		CA1
322.050	C11				
322.075		C21			CA2
322.100	C12				
322.125		C22			
322.150			C32		CA3
322.250	C13				
322.275		C23			
322.300				C41	CA4
322.325			C33		
322.350	C14				
322.375		C24			
322.400			C34		CA・

※チャンネル呼称について

（例）



TOA

取扱説明書

据置型受信機　WT-1120

このたびは、TOA据置型受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

警告　誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

水にぬらさない
本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

指定外の電源電圧で使用しない
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

電源コードを傷つけない
電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。
禁　止

万一、異常が起きたら
次の場合、電源スイッチを切り、ACアダプタを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき (心線の露出、断線など)
- 音が出ないとき

注　意

内部を開けない、改造しない
内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
禁　止

雷が鳴ったらさわらない
雷が鳴り出したら、ACアダプタにはさわらないでください。
感電の原因となります。
禁　止

TOA株式会社

トーン周波数表

1	14.80 kHz
2	14.75 kHz

仕　様

電　　源	AC100 V、50/60 Hz（AC アダプタ）
消 費 電 力	5 W
無線局の種類	特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備
電 波 型 式	F3E
受信周波数	322.025 Hz ～ 322.150 MHz、322.250 Hz ～ 322.400 MHz（25 kHz 間隔、13 チャンネル）
受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	S/N25 dB 以上（10 dBμVEMF 入力、偏移± 2.25 kHz） 受信（スケルチ）感度切換、Hi ： 10 dBμVEMF、Lo ： 20 dBμVEMF
トーン周波数	14.80 kHz、14.75 kHz（2 チャンネルのうちの 1 チャンネル）
総合周波数特性	150 ～ 6,000 Hz（携帯型送信機→据置型受信機） 130 ～ 7,000 Hz（卓上型送信機→据置型受信機）
ディエンファシス	50 μs
ミキシング出力レベル	標準出力：−12 dB *（ライン時）、−54 dB *（マイク時）（偏移± 2.25 kHz、変調波 1 kHz） 最大出力：+12 dB *（ライン時）、−30 dB *（マイク時）（偏移± 7 kHz、変調波 1 kHz） ライン／マイク切換、600 Ω、平衡／不平衡切換、ホーンジャック
リモート出力	ミキシング出力：オープンコレクタ出力、耐電圧 DC50 V、制御電流 30 mA 以下 電波受信時またはミキシング入力のリモート入力メイク時にメイク出力 リモート出力　：無電圧メイク接点出力、耐電圧 DC30 V、制御電流 100 mA 以下 電波受信時またはミキシング入力のリモート入力メイク時にメイク出力
ミキシング入力レベル	−12 dB *、不平衡、600 Ω、ホーンジャック
リモート入力（ミキシング入力端子）	メイク接点入力、開放電圧 DC2 V、短絡電流 0.2 mA、ループ抵抗 100 Ω以下 リモート制御時：リモート入力がメイク中はリモート出力（またはリモート端子）にメイク出力
機　　能	チャンネルスキャン機能
アンテナ入力	75 Ω、BNC ジャック（アンテナ供給電源： DC6 V、20 mA）
アンテナ出力	75 Ω、BNC ジャック
使用温度範囲	−10 ～ +40 ℃
仕　上　げ	ABS 樹脂、黒（マンセル N1.0 近似色）
寸　　法	210（幅）×44.6（高さ）×180（奥行）mm（突起部含まず）
質　　量	690 g（AC アダプタ含まず）

* 0 dB = 1 V（rms）

※ 本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

AC アダプタ（コード長 3 m）…… 1
設定用ドライバ …… 1
ゴム足 …… 4
3 極ホーンプラグ付きコード（2 m）… 1
アンテナ …… 2

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA インフォメーションセンター
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120-108-117
〒665-0043 宝塚市高松町 2 番 1 号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

133-07-189-0A

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたとき、人が障害または物的障害に結びつく可能性のあるもの。

ぬれた手で AC アダプタをさわらない
ぬれた手で AC アダプタを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。
⚠ 禁　止

電源コードを引っ張らない
AC アダプタを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ず AC アダプタを持って抜いてください。
⚠ 禁　止

設置場所に注意
湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。
⚠ 注　意

電源を入れる前には音量を最小に
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
⚠ 注　意

ＡＣアダプタは専用品を
専用品以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。
⚠ 注　意

ＡＣアダプタやコンセント部の掃除を
AC アダプタを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、AC アダプタは根元まで差し込んでください。
⚠ 注　意

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、AC アダプタをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。
⚠ 禁　止

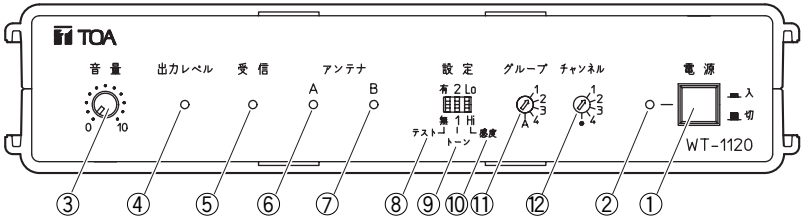
概　要

本機は、特定小電力無線局のＣ型ワイヤレスマイクロホン用に割り当てられた 322MHz 帯の電波を利用した、ダイバシティ受信方式の据置型受信機です。

使用上のご注意

- 蛍光灯、デジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して使用してください。
- ケース外部の汚れは乾いた布で軽くふいてください。ベンジン、シンナーなどは絶対に使用しないでください。
- 付属のアンテナを使用するときは、本機の周囲に金属物など電波をさえぎる物を置かないでください。正しく受信できないことがあります。
- 床に落としたり、かたいものに当てないでください。故障の原因となります。

各部の名称とはたらき（前面）



① **電源スイッチ**
押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

② **電源ランプ（緑）**
電源が入ると点灯します。

③ **音量調節つまみ**

④ **出力レベルランプ（黄）**
出力レベルの大きさを明るさで表します。出力レベルが大きいほど明るくなります。

⑤ **受信ランプ（黄）**
・点灯：電波を受信しています。
・速い点滅：トーンが一致していない電波を受信しています。ただし音声は出力されません。
・3回点滅の繰り返し：グループスイッチ、チャンネルスイッチが割当て外のところに設定されています。

⑥ **アンテナAランプ（緑）**
アンテナA側で受信すると点灯します。

⑦ **アンテナBランプ（緑）**
アンテナB側で受信すると点灯します。

⑧ **テストスイッチ**
電源を切った後「有」に設定し、再び電源を入れると、モニタモード（最高感度で受信した様子を出力するモード）になります。混信や妨害電波などを音声で確認できます。確認後は一度電源を切り、「無」に戻してから使用してください。（工場出荷時は「無」）

ご注意
- 電源が入った状態で切り換えないでください。電源を切ってから切り換えないと、モニタモードへ正しく切り換わりません。
- 「有」に設定した状態では、雑音や混信妨害などの音が出力されますので、音量を小さくして使用してください。

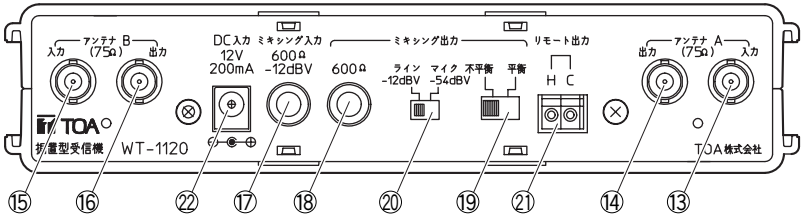
⑨ **トーンスイッチ**
本機にはトーンスケルチ機能があり、送信機と受信機の両方が同じトーンに設定されたときのみ受信機から音声が出るようになっています。本機にはトーンが2チャンネルありますので、使用する送信機と受信機のトーンを同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

⑩ **受信感度スイッチ**
「Hi」にすると、「Lo」にしたときよりも通達距離が長くなります。ただし、スイッチを「Lo」にしたときよりも、弱い電波を受信しているときに雑音が多くなります。拡声する場合は「Lo」に設定してください。（工場出荷時は「Lo」）

⑪ **グループスイッチ**
周波数表を確認の上、付属の設定用ドライバで送信機と同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

⑫ **チャンネルスイッチ**
グループにより使用できるチャンネル数が異なります。周波数表を確認の上、付属の設定用ドライバで送信機と同じ設定にしてください。（工場出荷時は「1」）

各部の名称とはたらき（後面）



⑬ **アンテナA入力**
アンテナを接続します。アンテナに電源を供給します。（DC6 V、20 mA）

⑭ **アンテナA出力**
本機をカスケード接続するときに使用します。

⑮ **アンテナB入力**
アンテナを接続します。アンテナに電源を供給します。（DC6 V、20 mA）

⑯ **アンテナB出力**
本機をカスケード接続するときに使用します。

⑰ **ミキシング入力**
入力レベルはラインレベルのみで、不平衡入力です。
3極ホーンプラグのコールド端子は、リモート入力端子になっています。

⑱ **ミキシング出力**

⑲ **平衡／不平衡スイッチ**
ミキシング出力を平衡または不平衡で出力することができます。接続する機器に合わせて設定してください。ライン／マイクレベルに関係なく、平衡または不平衡に切り換えられます。
「不平衡」のとき、ミキシング出力の3極ホーンプラグのコールド端子は、リモート出力端子となります。（工場出荷時は「不平衡」）

⑳ **ライン／マイクスイッチ**
ミキシング出力の出力レベルをライン（−12 dBV）またはマイク（−54 dBV）に変えることができます。接続する機器に合わせて設定してください。（工場出荷時は「ライン」）

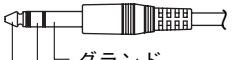
㉑ **リモート出力端子**
本機が受信する、またはミキシング入力のリモート入力が「リモートあり」（メイクする）になると、リモート出力端子、または、ミキシング出力のリモート出力が「ON」になります。

㉒ **DC入力ソケット**
付属のACアダプタを接続します。

● 3極ホーンプラグ付きコード（付属品）について

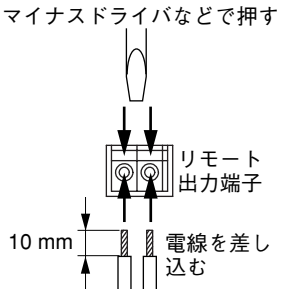
［ミキシング入力接続時］

［ミキシング出力接続時］



● リモート出力端子について

リモート出力端子 ㉑に使用可能な電線は、
単線　：ϕ 0.4 ～ 1.2 mm（AWG26 ～ 16）
より線：0.3 ～ 1.25 mm^2（AWG26 ～ 16）、線径 ϕ 0.18 mm 以上です。右図のように、電線の先端10 mmのところで外被を取り除き、リモート出力端子上部をマイナスドライバなどで押しながら、電線を差し込んでください。



設置のしかた

1. 本機に付属のゴム足を貼り付け、水平な場所に設置します。
2. アンテナを接続します。
   [付属のアンテナを使用する場合]
   アンテナを30°から45°程度、外側に傾けてアンテナA/B入力⑬⑮に接続します。

   ご注意
   - ダイバシティの効果を最大限に引き出すため、アンテナは必ず外側に傾けてください。
   - ショートさせないでください。故障の原因となります。

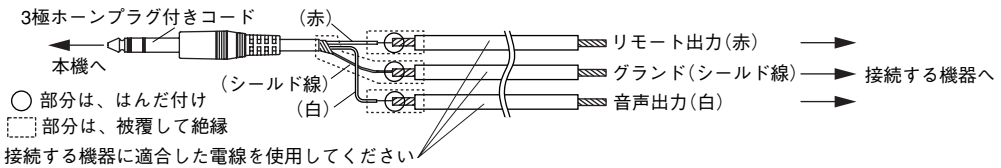
   [外部アンテナを使用する場合]
   アンテナYW-1102をアンテナA/B入力⑬⑮に接続します。それぞれ最大3本まで接続することができます。(混合分配器YW-20などが必要です。)

   ご注意
   アンテナ間は3 m以上離して設置してください。
3. ミキシング出力⑱を、アンプなどの入力端子に接続します。

   ご注意
   ミキシング出力は、接続する機器によっては加工が必要です。(「3極ホーンプラグ付きコードの加工のしかた」参照。)
4. アンプなどを制御するときは、リモート出力端子㉑またはミキシング出力⑱のリモート出力をアンプなどの制御入力に接続します。

   ご注意
   リモート出力端子⑳とミキシング出力⑱のリモート出力は同じ制御信号が出力されます。接続する機器に合わせて、どちらか一方を接続してください。

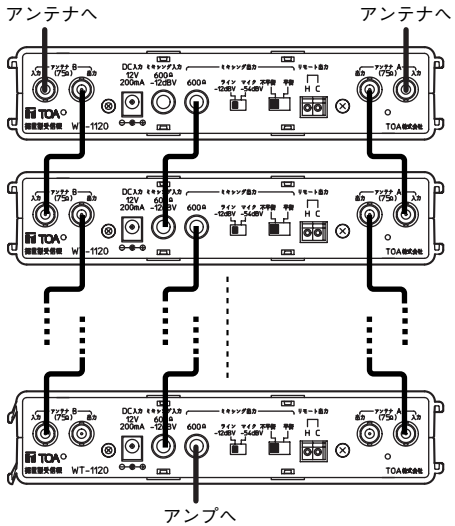
[3極ホーンプラグ付きコードの加工のしかたと配線のしかた]



■ カスケード接続をするとき

据置型受信機を最大5台までカスケード接続(並列接続)することができます。

ご注意
- 次段の据置型受信機に接続するとき、ライン/マイクスイッチ⑳は「ライン」に、平衡/不平衡スイッチ⑲は「不平衡」に設定してください。
- 複数の据置型受信機は、それぞれ異なるチャンネルに設定してください。
- リモート出力もカスケード接続されます。アンプなどを制御するときは、最終段の据置型受信機のリモート出力のみを接続してください。
- 最終段の据置型受信機は平衡/不平衡、ライン/マイクのどちらでも出力できます。



操作のしかた

1. ACアダプタ(付属品)のDCプラグを、本機のDC入力ソケット㉒へ差し込んだのち、ACアダプタを電源コンセント(AC100 V)に差し込みます。
2. トーンスイッチ⑨、グループスイッチ⑪、およびチャンネルスイッチ⑫を設定します。
3. 本機の出力レベル⑳と平衡/不平衡⑲を、接続機器に合わせて設定します。
4. 音量調節つまみ③を最小にした後、電源スイッチ①を入れます。
5. 音量調節つまみを最大にします。

   ご注意
   本機の音量は最大にして使用してください。(音量を最大にしても音はひずみません。)ただし、本機に接続した外部機器にボリュームがないときは、本機の音量調節つまみで音量を調節してください。
6. 使用後は、電源を切ってください。

上手な使いかた

- 同一場所で同時に使用できるチャンネル数は、グループ1～3では4チャンネル、グループ4では1チャンネル、グループAでは5チャンネルです。同時に使用するときは、同一グループの中でチャンネルを設定してください。複数のチャンネルを同時に使用すると、1チャンネルのみの場合に比べて通達距離が短くなることがあります。
- 近くで本機と同じC型ワイヤレスマイクロホンを使用していると、チャンネルによっては妨害を受けることがあります。そのときは、使用するチャンネルを変更してください。
- 本機には、リモート出力があります。ミキシング出力のリモート出力は、本機が同一トーンの電波を受信すると、リモート出力がON(メイクした状態)になり、外部機器の電源を起動させて、音声を出力することができます。また、マイクレベルでリモートを使用するときは、出力を「平衡」にして、リモート出力端子㉑を用いてください。
- 2本以上の送信機を使用する場合は、送信機の間隔は50 cm以上離してください。
- 送信機と受信アンテナの距離は、できるだけ離して使用してください。
- アンテナYW-1102を使用する場合で、次のすべての条件に当てはまるときは、アンテナYW-1102をブースタアンプなしに変更してください。
  (1) 同一場所で3チャンネル以上の送信機を同時に使用する。
  (2) アンテナと送信機の間の距離を3 m以内で使用する。
  (3) アンテナと据置型受信機の間の同軸ケーブルの長さが、5C-FBの場合50 m以内、7C-FBの場合75 m以内で使用する。
- 本機には、スキャン機能があります。グループ1～3でチャンネルを「・」にするとスキャンモードになります。スキャンモードでは、受信中の電波が弱くなり受信しなくなると同時に、自動的に新たな受信可能な電波を探して受信します。複数の送信機が異なるチャンネルで、交互に送信するときに使用します。

  ご注意
  - 1つの送信機を使用している(受信している)ときは、ほかの送信機は使用できません(受信しません)。
  - 複数の送信機が同時に送信したときは、最初に送信(受信)した送信機の電波が優先されます。
  - グループ4とグループAにはスキャン機能はありません。